

〔巻頭言〕

21世紀にむけての課題

聖隷クリストファー看護大学大学院

飯田 澄美子

1. はじめに

人間が健康問題を抱えて生きて生活する時、看護の分野では、その環境に適応したり、その問題に対処できる様に支援し、支えていこうとする。そして、健康回復へむけての知識や技術をもち、身体面のみではなく、家族の心の中にも働きかけ、本人及び家族の生き方やその環境を総合的に判断し、改善していかれる様、共に考えていこうとする。その援助活動を有効に進めていくためには、個人及び家族に対する見方が身につけていることが大切である。個人及び個人をとりまく家族の状態を判断したり、家族の変化に対応できるためには、専門的な知識と技術を身につけていなければならない。また、家族を支えられない場合には、その限界をわきまえて、他の支援システムとの連携、協力も必要である。このように考えてくると、できるだけ家族に対応できる多くの技法を身につけておくこと、他の専門職と共有できる知識・技法も心得ていることも大切である。他の分野の方々と協力でき、さらに看護独自のサービスが提供できる専門家として育つためには、高度な教育と研修が要求される。基礎教育、卒後教育、大学院教育に至る過程の中で、スーパーバイザーの指導の下で、トレーニングが行われることが必要である。

2. 事例研究（事例検討含む）の構築

問題解決の一連のプロセスに加えて、人間関係としての情緒面、感情面にも注目し、その援助過程と結果について、行なった援助内容を評価していくことは、援助内容を質的に深め、看護者の成長に深く関係している。現実の援助のプロセスを通し、その現象の中で共に参加しながら、一方では、観察者でなければならない矛盾もあり、その援助者の関わり方が、その

援助者自身の人柄が、相手に影響を与えることも少なくない。また、現象学的にみる時、相手の主観の世界と、自分の主観の世界を関与させながら、それらを全体として、「見る」ことの目を養わなければならない。主観的関与と客観的観察という両立しがたいことを両立していく難しさが存在する。そして、事実を把握し、必要な事実を選択し、記述していく能力も必要とされる。また、必要な資料を収集し、正確な仮説を立て、実証していく過程も必要である。一つの事実、記述の中に、何回もの仮説と検証の過程が組み込まれていくこともあり、それが、事例の重みとなって展開されることもある。事例研究では、新しい技法の提示、見解の提示、新しい理論、問題解決困難とされている複雑なものへの援助の内容、方法を示すことができる。しかし、一方、主観的な特殊な要素が入りやすいという限界もあり、その限界を知って補う作業としての看護婦側の学びと気づき、訓練が必要である。

3. スーパーバイザーによる指導と体験学習の必要性

スーパーバイザーは、援助者の気づかないところを注意してくれるのみでなく、教育的にも治療的にも人間的成長にも援助を与えられる人と言う。一般的には、経験や知識を豊富にもち、自分の知識と経験を客観化でき、全体的視野に立って、相手の問題・人物を知り、相手の長所・短所を知って指導のできる人で、人間的にも、技術的にも安定し、統合している人が望ましいと言われている。体験学習は、自己理解のための学習・人間関係スキル・家族への介入法等、さまざまなものがみられる。

4. 家族看護の専門看護師（CNS）の誕生にむけて

日本において、医学・心理学・社会学分野等で、家族を対象とした研究が行われるようになったのは、1980年代に入ってからであるが、看護学分野では、平成（1990年代）に入ってから特に注目され、学会の誕生は、平成6年（1994年）であった。家族に視

点をあてた研究も、実践もこれからであり、スーパーバイザーの養成もこれからである。今後、家族看護の専門看護師の誕生にむけて、家族援助の方法の開発と、実践の訓練・研究が関連して行われていくことが急務であり、期待されるところである。

第5回国際家族看護学会のお知らせ

～21世紀へ向けての家族看護学～

第5回国際家族看護学会が次のとおり開催されます。

日本家族看護学会会員の皆様が多数、発表、参加なさいますよう、ご案内いたします。

開催期間 2000年7月19日～22日

開催地 アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ

この学会は、1988年から3年ごとに開催されており、終始、家族への理解と実践についての共通の認識を持つようとする看護職のために、幅の広い視点が保たれています。その目的は、看護職がネットワークを作り、認識を新たに、家族看護学の最新の発展を知ることにあります。これまでに、カルガリー、ポートランド、モントリオール、チリで開催されており、世界20カ国から500人以上の参加者があり、世界最大の国際家族看護会議となっています。今回は、日本から多くの看護職が参加することが、期待されています。

基調講演者など開催の詳細は、学会ホームページ (<http://www.familynursing.com/>) をご参照下さい。